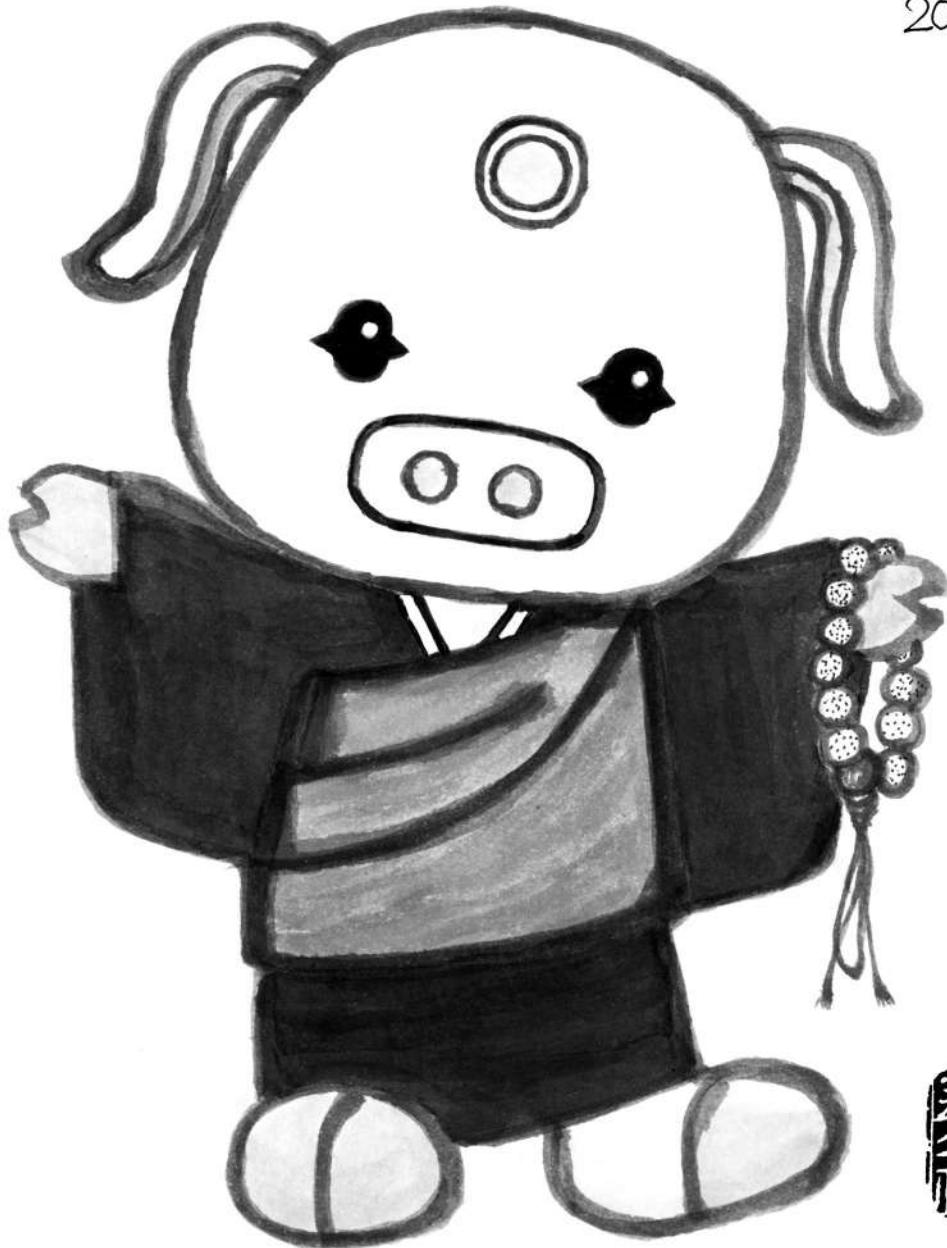


おがくわ

103号

真宗大谷派
高徳寺通信

2023年夏号



釋了吾の 八女日記

レヤ
リョウ
ジ

ノミコト
ノミコト
ノミコト



東京より涼しい八女から、皆さまこんにちは。
一年前と同じような挨拶で申し訳ありません。
最近は寒がり暑がりと寒暖差がひどく、
身体の方もだるさが出てくる頃合です。皆さま、お身体のお具合はいかがでしょうか?
八女は新茶も出回り、田植えの季節になりました。ふと思ふことは、去年よりも田んぼは少なくなっているなあ...ということです。農家の方も高齢化や各種経費の上昇などでお米作りをやめて、田んぼを賣して住宅にして売り出されているところが増えております。私が今まで住まわせていただいているアパートも、5年前まで

田んぼだたそうです。普段いかない地区にお参りに行く際、「ああ、今年はここも住宅にならんだなあ」と思う時に、「諸行無常」など寂しさを覚えるものです。

さて、私の近況としては、「5月が大変お葬儀が多く忙しく、怒涛の日々を過ごしたかと思えば、今筆を取りて「6月初めはパツタリと止み、不思議だなあと思つてあるところです。よく季節の変わり目は身体への負担が大きいので、お亡くなりも多いとうつ話を聞きますが、あなたがち間違いではないのかなあと思つうところでした。お葬儀が続きますと、お坊さんも混乱をしてしまって、よくあるのは、お名前がこんがらがります。間違えなどはとてもしてはいけませんから必死に覚えるわけですが、お坊さんも立派に人間ですしごく私は生来、人様のお名前を覚えるのが結構苦手でして、似たお名前でお年も近い方が同じ時期に亡くなりますとともに混乱を致します。普段からお付き合いがあつたり、知つてある方であれば大丈夫ですが、何も

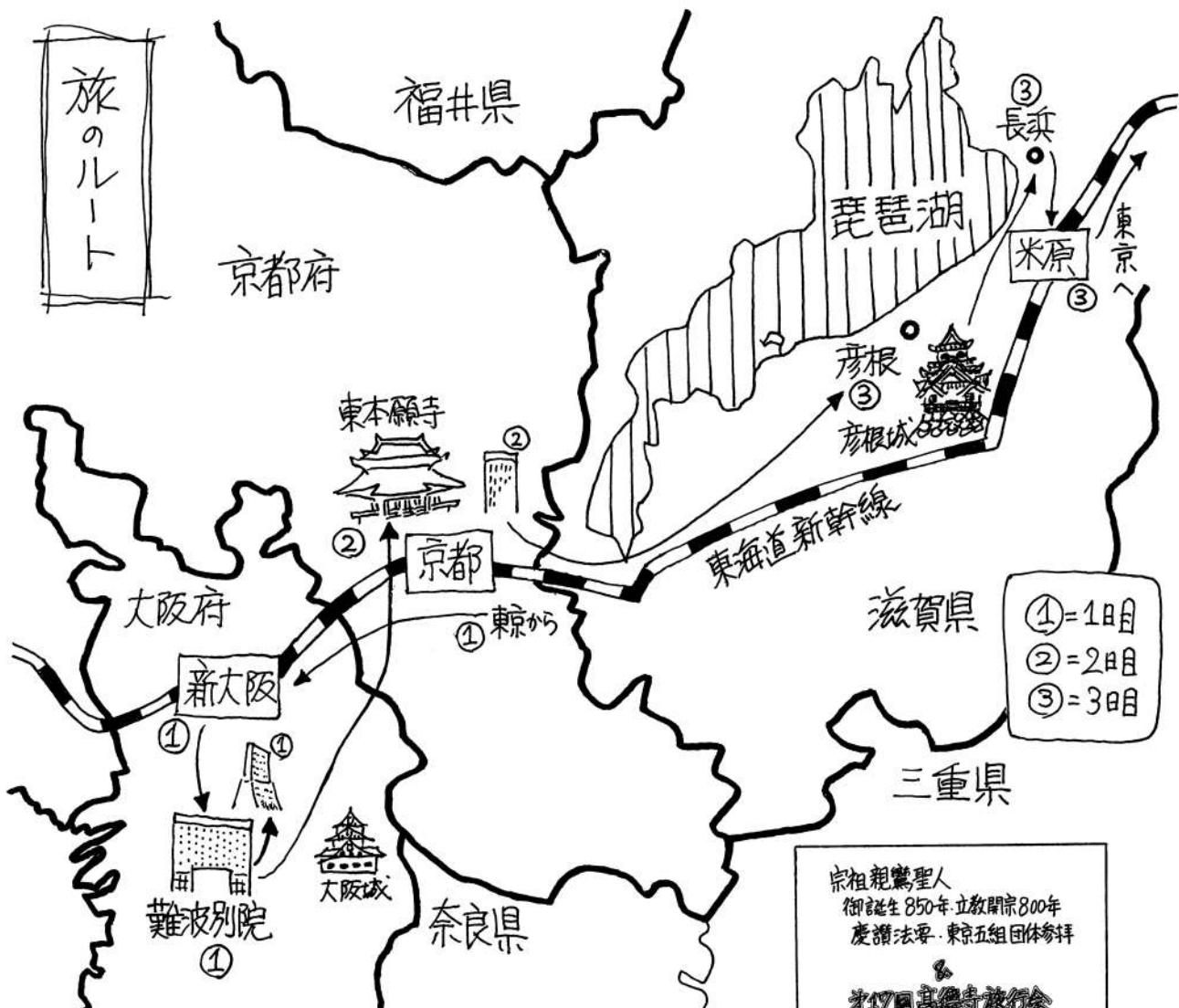
ご縁がな「方だと通夜葬儀の場が初めてまして…ですから…ましてや一日数件ありますと、困難を極めます。メモ書きを忘れずに持って行くわけですが、お通夜の場などでは当然見ることは出来ませんし、ふと「お名前は〇〇さんでよかだんだろうか?」といふ雜念が入り込むと、もう大変なことがあります!煩恼です。個人的にはお用いの席、悲しみの場を壊さなうこと第一に心がけているので、毎日毎日必死にお名前を覚えています。皆さまもお仕事やお付き合いの中で「あれ?この人名前なんだ?」と思われる瞬間はありませんか?なかなか難しい我が身です。^{正信偈}の中に「^{あくやんま}憶念彌陀仏願」という一節があり、「憶念」という言葉が出てきますが、「心に田^たじて心ねなり」という意味だそうです。なかなかお名前も仏様のことも、ふと忘れてしまつゝな、懐念至らぬ悲しい我が身であるなあと思ひます。前号で記しましたが、今年の4月から九州大短期大学の非常勤講師のお役目をいただいて、「自己との出会い」という授業をさせて頂いております。すでに10回ほど、授業と言ふるが、自信はありませんが、学生たちと一緒に時間を持たせて頂いております。いろんな発見があり

ます。一番の氣付ちは授業というものを、いかに自分が適当に受けていたかということでした。と言いますのも、生まれてこれまで学校では学生の立場しか経験してきておりませんでしたから、何かを教えることの難しさ、準備の大変さ、いや意氣込んで教室に行って数名休まれた時のガックシ感たるや、大変なことです。学生の時は、「今日は雨でやる氣も起きない」帰ろう「なんて調子で不真面目な時もありましたね、「あくもしかしたらあの時も先生方は準備をして意氣込んでござっていたのかなあ、休んでガッカリさせられたかもなあ」なんて思ったり。学生が氣合^{けあ}をしておても、「氣怠^{けだる}」そうになると、結構申し訳なく田^たうなあ」とか。勿論私の知らな、事情で氣怠^{けだる}たり、眼か^かたりするのですが、何か申し訳なくなります。自分が学生だった頃にしておったこの答え合わせと言つか、これは授業を持ってみないと分からなかつた発見であります。勿論、眞面目に授業^{きじゆ}を聞いて参加してくれる学生がほほんじですが、過去の自分の行いを振り返りながら毎週毎週どうしようこうしようと悩ませて頂けることを有り難いと思います。また、自分もしていたことをされると不安になつたり腹が立つも、都合のいい煩惱具足の我が身であると教えて頂いているような気が致します。講師の私も自己と出会いながら、最後の授業まで悩みながら受けさせて頂こうと思います。つづく

『宗祖親鸞聖人 御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要

東京五組団体参拝』 & 『第17回高徳寺旅行会・京都

彦根・長浜を味わう旅』 の ジ報告 (2023年4月21日~23日)



新型コロナの感染拡大も下火になり、久々に東京五組といふ団体での本山参拝。そこに高徳寺の旅行をくっつけて新緑の大坂、京都、滋賀を旅して参りました。どうぞお氣楽な心もちでご覧下さい。



のホームに集合し、9:33発ひかり637号にて、東京五組の御同席、御同行の方々と新大阪に向かうた。途中、夕べ張りながり、旅の復活を喜んでみると、あつという間



◆南御堂の本堂で記念撮影。
とても大きくて広い。お内陣のお
壯嚴は金碧光でかつ厳肅。

去る4月21日(金)～23日(日)に、東京五組(高徳寺が所屬してゐる真宗大谷派の19ヶ寺のブロック)の有縁の方々と附に、京都の東本願寺などへ参拝して來た。今年は宗祖である親鸞聖人のお誕生されて800年と、立教開宗800年という節目の年にあたり、その大法要が厳修される期間内に總勢120名という大変沢山の方々とお参りさせて頂いた訳である。本山の法要の開始時間が早いこともあり、前日に大阪にある難波別院へも参詣して、そこから親鸞聖人の元へ参らうと、非常に欲ばり企画を立てたものである。さうには、新型コロナの感染拡大で3年間お休みだった高徳寺旅行会もくつけてしまったので、誠に中味の濃いリハビリ旅というには勿体無いくらいのゴージャスな旅となつた。



◆大阪エキレホテル東急の
門から見た難波別院
の本堂。面白い&素敵!



◆ ブットくんとパチ♪



- ◆ 南御堂の本堂の前で高徳寺のメンバーで記念撮影。



◆団参初日の夕食及
大懇親会の挨拶
をする団参委員長(私)。

4月 21日	1日 目
32F・スカイテラス ホテル日航大阪 夕食・大懇親会	

振り返ると、コロナ禍でオンライン会議や在宅ワークがかなり割合を占めていた頃、東京五組の組長を拝命しており、今回の団体参拝(団参)の委員会が発足した時に団参委員長も仰せられたので、約一年をかけて委員の方々をはじめ、いろいろな方々のご協力を得て、なんとかこの団参がうまくこどいくようにアイデアを出し合って、準備をしてきた(特にこの大宴会の企画が本当に実現出来るのか、一年前は“そんなに無理!!”という声が漂っていた)だけに、この日を迎えて、



◆高徳寺責任役員の
石井弘芳さん。ブタン
くんのみくぐるみを
ゲットして大満足♪

えることが出来たのは本当に有ること難いおかげさんである。大阪の街を一望できる日航ホテルの32階のスカイテラスを貸し切り、18の円卓を囲んでの宴は、参加された方々一人一人の笑顔を拝見した時に：やって良かった&来れて良かった!と大変嬉しく思った。今回は九州の八女から住職の長男の了吾も参加することが出来て、門徒さんや五組の寺族の方々とも親交を深めている姿を見た時に、まさに“ご縁”を感じた…。2時間一本勝負、飲み放題の宴のクライマックスは、ヨーナンケンゲーム大会!! ルールは、団参委員の須賀住職と会場の皆さんのがざんげんをして、勝つた方には五組から賞品をさしあげると、う、いたってシンプルなもの。何回もチャレンジ出来るので、多くの方が難波別院のオリジナルグッズ(ブタン)が漂っていた)だけに、この日を

4月 22日	2日 目
大阪エクセルホテル東急 ↓京都 東本願寺 親鸞聖人慶讃法要参拝	



◆右より、義じ輪番、存明等の
酒井大樹副住職、新井了吾。
大阪、東京、九州在住の3人が
揃うというのも、団参ならではの
ご縁ではなかろうか…♪

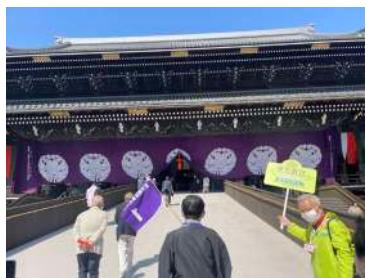
くんのぬいぐるみ等)や、京都、東本願寺のオリジナルグッズ、東京五組のオリジナルティッシュ等、素敵ながら負けてしまった方にも参加賞が用意されていたので、どなたも二コニコ顔で無事終了。こうして夕食・大懇親会は盛況のうちに閉会となつた。スカイテラスで解散となつたので、参加された方はそれぞれ思い思い大阪の夜を過ごされたようである…。

早朝、部屋のカーテンを開けると、青空が目に飛び込んで来た。17階のレストランで朝食を済ませ、鳥



◆雨だったりどうしよう…そんな心配はどうかへふ、僕んぞいくような快晴の中、笑顔で記念撮影。高徳寺は3つの寺院さんと一緒に

支度を整えて、別院の本堂にお参りする。ブツンくんの看板に別れを告げてバスに乗り込み、8時に別院を後にする。道路は比較的順調に流れていて、京都の東本願寺には9時少し前に到着出来た。この慶讃法要に向けて、本山のすぐ前の（本山所有の）道路を無くして石を敷き詰め、広場に作り変え境内から御影堂に入る階段にストップを設置し、バリアフリーになった。バスは御影堂門を少し過ぎたあたりに駐車した。点呼完了し、バスと一緒に歩いて御影堂門をくぐる。まずは御影堂の前でバスの号車ごとに記念撮影を済ませ、御影堂内へと向かう。五色幕が風にひらめいている。回廊



◆これが御影堂の巨大スロープ。
←◆回廊は少し涼しい。

は風が通って境内よりも涼しい。堂内は団体にて座席（ハイブイス）が割り振られている。東京五組は中央の方々イスの上には本山オリジナルのプラシケットが用意されていた。使いながら…と思つたが、法要が始まる頃には、寒くなってきてきて、思わずひざに掛けてしまった。座席に手が届く、有り難い記念品であった。今回、東京五組か



うち記念品を用意させて頂いた。門徒さん用の“肩衣”である。肩衣とは小型の袴袋で上の集合写真で首に掛けているものがそれである。藤色で五組の紋が入つていて、団参に小さめの品だと参加された方々は大変喜ばれていた。御影堂にて門徒さん全員が着用されたことは言うまでもない。我々が参詣した法要は約2時間という大変に重い法要で、しかも史上初となる阿弥陀堂、御影堂両堂での同時勸行（同時に始めて同時に終わる）という法要だった。法要に携わられた方々の苦労がうかがえる。法要終了後（大人数なご）各寺院ごとに堂内で解散となつた。寒かったので外の陽射しが有り難い。高徳寺参加者は暫し自由行動♪

4月22日

2日目

京都東本願寺
↓京すいしん↓
ホテル↓味彩の会

◆ これがどの眼り
獅子。本当にお参りされましたう。探してみてください。

◆ 京すいしんの
お昼ごはん。大勢で食べる
と美味しさ加倍!!

◆ 京都東本願寺前
の週末！今回の団参は春の京都
の時期は、あちこち移動すると大
変になるので、なるべくコントロ
リートにしておく。昼飯処もホテルも
本山(駅からも)から歩いていける所
をチョイス。このドーミーインは日本全
国に展開していて、天然温泉が壳り
のビジネスホテルである。バイキング式
の朝ごはん(※有料)はその土地の食べ
ものが沢山出るので楽しめである。千
葉の旅館を満喫したら、夕食まで自由
行動。温泉に浸かる人、『親鸞生涯と名
宝』(京都国立博物館)を見に行く人、錦
團參の話に花が咲く。その中で御影堂門
の柱が痛まないように巻かれた金属の根巻
に施された32体の獅子に1体だけ眠る獅子がい
るという話が出て、今回見つけた方
や、知らなかつた方などで盛り上がる。
た。お腹も心も満たされホテルに向かう。



市場を散策する人々など、これまで田心田心の時を過ごした。そして夕食は錦市場にある『味彩の店』と、うなぎの店。(11時~15時営業)ここは企職が親しくさせてもらっている方のお嬢さんがうなぎを焼いて、特別に夕食タイムに貸し切りさせて頂けた♪お食事処難民が出るという京都で誠に有り難いことである！3年ぶりの旅行会を今うることもあって、久々にワイワイガヤガヤの樂しませ宴会となつた。そうして京都の夜は更けて…

4月23日
3日目
↓ ホテル ↓ 彦根・彦根城 ↓ 長浜



◆よく晴れた京都。
4月下旬だが朝から強烈
な陽射し!!



◆モーニングコーヒーを手
にいざ彦根へ!

寝ぼけままで部屋のカーテンを開けると、ピーカン♪だとテニスを聞かれて、朝風呂を味わいながら、バスで約10分。そこから山道を登っていき、ホテル前よりバスに乗り込み一路彦根を目指す。

約一時間半で彦根に到着。これより一行は2チームに分かれることに。①彦根城へ向かうチーム。②彦根の城下町を散策するチーム。バス、駐車場から徒歩で約10分。そこから山道を登ってくれば、足に自信のない人は②を味わって頂くことにする。住職は①のチームなので画像は彦根城がうれのものしかない。(あしからず)



ひこにゃんのプロフィール
彦根藩・井伊家2代当主の井伊直孝公をお寺の門前で手招きして雷雨から救ったと伝えられる招き猫と、井伊の朱塗りの兜(かぶと)を合体させて生まれたキャラクター。

◆この石碑の左の橋を渡ると入城券の売り場がある。

◆金龜山を登っていくと途中に城下町が見渡せる橋がある。



彦根城

江戸時代初期、現在の滋賀県彦根市金龜

町にある彦根山に鎮西を担う井伊氏の拠点として築かれた平山城(※)(標高50m)である。山は金龜山の異名を持つため、金龜城とも呼ばれた。築城主は井伊直継で、天守と櫓2棟は国宝に指定されている。小ぶりながらも、とても美しい天守! 天守までの内階段はびっくりするくらい急いで、手すりがないと上り下りは困難だ。天守の窓からは、彦根の町並みや琵琶湖を一望できる。石段や石垣がふんだんに使われていて、美しくて強い城という印象を受けた。残念ながら、ひこにゃんのお城内の随所に防御の策が講じられていて、美しくて強い城という印象を受けた。残念ながら、ひこにゃんのお城常設の看板(?)と一緒に記念撮影をしてバスの駐車場まで戻る。散策チームはお茶したり、ソフトクリーミーを食べたりお土産を買ったりして過ごしたそうだ(笑)。

①と②のチーム: それぞれのエピソードを語り合ひながら、バスに乗り込む。おもいきり顔が陽に焼けた感じにする。

4月23日

3日目

長濱浪漫ビール
de 昼食 → 黒壁
スクエア → 米原 ↓
東京駅 ↓



◆バスの駐車場からポカポカ
力陽気の中、昼食会場
を目指して歩く一行



◆グラスなんてまだろんしい!
とばかり、ビールをピッチャー
で楽しむテーブルも…(笑)

約30分で長浜に到着。バスを降りて約10分歩くと、川沿いに雰囲気のある建物が見えてきた。長濱浪漫ビールさんだ。この建物は築100年以上の米蔵を改装し併設の直営レストランでは、クラフトビールや郷土料理、近江牛などを提供している。2016年に誕生した日本最小規模のウイスキー蒸溜所として注目を集めている。旅行会最後となる昼食は、近江牛を鉄板べで焼きながら、樽詰めしたこのクラフトビール飲み放題と、う各自への「豪華ランチ」。コロナで閉ざされていた“何か”が解放されたかの如く、「食べる・話す・呑む・笑う」が繰り返される光景を見て有ること難しおなげさんだなあとと思う住職である。



◆皆に見送られて一足先に八女に帰る新井了吾。



◆ほろ酔い加減で散策
鬼の人形と一緒にハイキーズ!

宴もたけなしのところ、最後の「ひと舌」「一ナード」参加されたお一人お一人が、今回、東京五組団体参拝と高徳寺旅行会に参加されて感じたこと、印象深かったことなどを語られた。「京都の東本願寺は何回かお参りしたが、このような大法要に参詣したのは初めてで、とても感動した」「大阪の御堂筋は欧阳菲菲の『雨の御堂筋』で知っていたが、南御堂・北御堂(西本願寺)の参道だったとは知らなかった」「お土産を沢山買ってしまった」「3年ぶりに有縁の方々と旅が出来て嬉しい」「食事が美味しいといはば、食べてしまい、太った!」などなど、様々な感想を聞かせて頂いた。途中、了吾が福岡県八女市に帰るため、一旦先に長浜を後にした。食後のことば、「わい今、この清き食事を終りて心豊かに自身に満つ」を唱和して集合時間まで各自自由行動。レストランを出ですぐ、「黒壁スクエア」という伝統的建造物群を生かした観光スポットがあるので、ぶらりと散策する。ガラス工房やカフェ、土産もの店が軒を連ねていて見るだけでも楽しい。樂しい時間はあっという間に過ぎて行くもの。一行はバスで米原の駅に移動。新幹線で帰路に着く。田参なうびに旅行会を邪魔する縁がないくて、本当におかげさんである。来年も乞うご期待!!



2023.4.21~23
東京五組団体参拝
&
高徳寺旅行会



ひがんえ 秋彼岸会

『彼岸』は、「阿弥陀仏の淨土」を指し、お淨土に還^{かへ}ていかれたご先祖や大切な方を想^{おも}ぶと同時に、今を生きる私たちの生活を振り返る仏教期間です。

9/20(水)～26(火)

* お中日(秋分の日)23日の11:30より
本堂にて彼岸会の法要が勤まります。
どなたでもお参りいただけます。

・ 9/23(土)と24(日)は白石ホールが
お休み処になります
(10時～15時くらいまで) ご利用ください。

右のQRコード もしくはパソコンや
スマートフォンで「こうとくじ／高徳寺」
で検索して頂きますと寺のホームページ
にお入り頂けます。法話の動画もあります！

高徳寺のホームページ



ご覧ください！

GOENS

Live

2023

ゴーエンズ・チャリティーライブパーティーのご案内

9月3日(日)

高徳寺新井白石記念ホール B1

16:00 開場
16:30 開演
18:00 終了
(予定)

お一人様

20歳以上 2000円

高校生以上 1000円

小・中学生 500円

小学生未満 無料

* 当日の収益金及び「義援金BOX」内の募金は、真宗大谷派・災害ボランティア部門へ寄附させていただきます。

「GOENS」は住職がバースのバードです!

遊びに来てください♪



◆2019年のライブパーティーの模様。4年ぶりにお待ちしております。

2023年の

ほう

おん

こう

報恩講

は

10月21日(土)
です。

法話の講師は今年も

み はる とし あき

三明智彰先生がご出講

(九州大谷短期大学・学長) くださいます。

* 詳細は104号でお知らせいたします。

カレンダー、手帳にご記入頂けましたら幸いです！

Omi gaki 御礼

2023.3.12 SUN ご奉仕

石井 玉枝さん
児玉 金之助さん
清水 和美さん
菅原 悟さん
菅原 千恵子さん

塚田 和子さん
塚田 太郎さん
仁野平 延芳さん
水越 拓路さん
水越 和子さん

◆おかげさんで
仏具は
いつも
ピカピカ
です！

(あいさと順です)

2023.7.2 SUN ご奉仕

お磨き奉仕

菅原 悟さん
菅原 千恵子さん
仁野平 延芳さん
寛谷 恵美子さん
古谷 紀代美さん
水越 拓路さん
水越 和子さん

(あいさと順です)

次回は 9/10(日) 14時からです。

Kanpa Onrei

応援頂きました有り難く存じます♪

神野 くららさん
鈴木 新一さん
金山 喜昭さん
大槻 宏子さん
江守 利行さん
永川 審子さん

(いとういた順です)



去年(2022年)は日本の夏の平均気温が1898年の

統計開始以来2番目に高く観測史

上初めて6月に40度を超えた記録

され、猛暑となりました。5月から9月までの全国の熱

中症による救急搬送者の数はなんと2万4千人余り!

そして記録的な豪雨で全国各地に甚大な被害が出た。今年(こじかう)はどうなるのだろうか? このあとがきを書いている現在、線状降水帯(積乱雲が同じ場所で次々に発生して列をなす現象)が九州や中国・

四国地方に甚大な被害をもたらしている。

特に熊本県益城町や山都町では、道路や橋が崩落し、淨恩寺というお寺の本堂が隣の山からの土砂によって押しつぶされてしまった。今年は猛暑に加え台風は平年より多い29個前後と予想されて、日本列島に接近・上陸のリスクが高まるらしい。コロナが下

ままでとどまらず、ギニーズ、たえずと水火二河のたとえにあらわされたり。

親鸞聖人のことば

真宗聖典
P.545

発行日 2023.7.13

発行 真宗大谷派 高徳寺

編集 住職 新井義雄
(法名: 繹義祐)

〒164-0002

東京都中野区上高田1-2-9

☎ 03-3368-6947

FAX 03-3362-8019